

NCU

Information web magazine



Contents

- ・副学長インタビュー
- ・MY CAMPUS LIFE
- ・ゼミ紹介
- ・コミュニティケア教育研究センター&研究室紹介
- ・サークル活動紹介～天文サークル星楽流～

副学長インタビュー



— どんな研究をしていますか？

食品の栄養性、健康機能性、おいしさの成分や理化学的特性の研究をしています。前職の農業試験場で一番取り組んでいた小豆については、加工特性や健康への理解がここ20年でやっと進んできました。この研究を書籍の発刊やラジオ・テレビへの出演を通して皆さんに伝えています。



— 仕事で大切にしていることは？

自分の行った成果を学会やマスメディアを通していかに人に伝えていくか。授業も教員が言っただけで終わりではなく、いかに学生が理解して身に付けていけるかが大事だと考えています。

— 学生へのアドバイスや期待することは？

名寄は都会と違い落ち着いて勉強に向き合える分、少し遊びや刺激は少ないかもしれません。でも地域や学生・教職員との距離がとても近い大学だと思うので、これを活用して交流を深めてほしいです。勉強はもちろん、サークルやアルバイト、地域との交流などを通じて学生時代にしかできないことを充実させてください。道外出身の人もあると思うので、名寄や道北、北海道の良さを目で見て、耳で聴いて、肌で感じてほしいです。

— 息抜きや趣味は？

趣味は学生時代から社会人になっても続けていたバンド演奏です。今は演奏よりも、音楽を聴くことが多いですが、たまに楽器を演奏しています。主にクラシックとジャズを融合したプログレッシブ・ロックが好きです。

楽器は元々はベースですが、ボーカルやギター、キーボードもやっていました。



— 名寄市をアピールするなら？

人口30,000人以下の市が大学を有しているのはすごいことで、それだけ名寄市が教育に力を入れているという証拠であり、名寄市の大きな財産です。少人数教育で異職種との連携や、地域の方々とのつながりはとても魅力です。地域の方々が大学を応援してくれていることも非常に素晴らしいことだと思います。都会のマンモス校にはない魅力を感じてほしいです。

— 副学長のお仕事って？

大きくは3つ。大学の魅力発信や環境整備を行い学生確保をすることが1つめ、教員が研究できる環境を維持・強化し、良い研究を良い教育に繋げることで大学のステータスを上げるのが2つめ、将来を見据えて看護学科での助産師課程開設や道北地域の医療福祉職の方がさらに知識を得るための受け皿となる大学院設置の検討が3つめです。

— 就任にあたり心がけていることは？

教員学生問わず皆さんの意見を聞くこと。

コロナの影響を受けた学生がどうしたら充実した生活を送れるかを考えています。

かとう じゅん

加藤 淳 副学長 略歴

帯広市出身

1984年 帯広畜産大学大学院修了	2000年 農学博士取得
1987年 北海道庁入庁	2016年 道立道南農業試験場長
1988年 道立中央農業試験場研究員	2019年 名寄市立大学栄養学科教授
1998年 クイーンズランド大学客員研究員	2022年 名寄市立大学副学長就任

主は豆類の加工適性等の研究、これまでの経験や研究結果を通じて複数の著書を発刊。そのほかラジオ、テレビなどのメディアで幅広く活躍。



インタビュアー

社会福祉学科2年
宗片 都喜絵さん

社会福祉学科2年
宮本 かれんさん

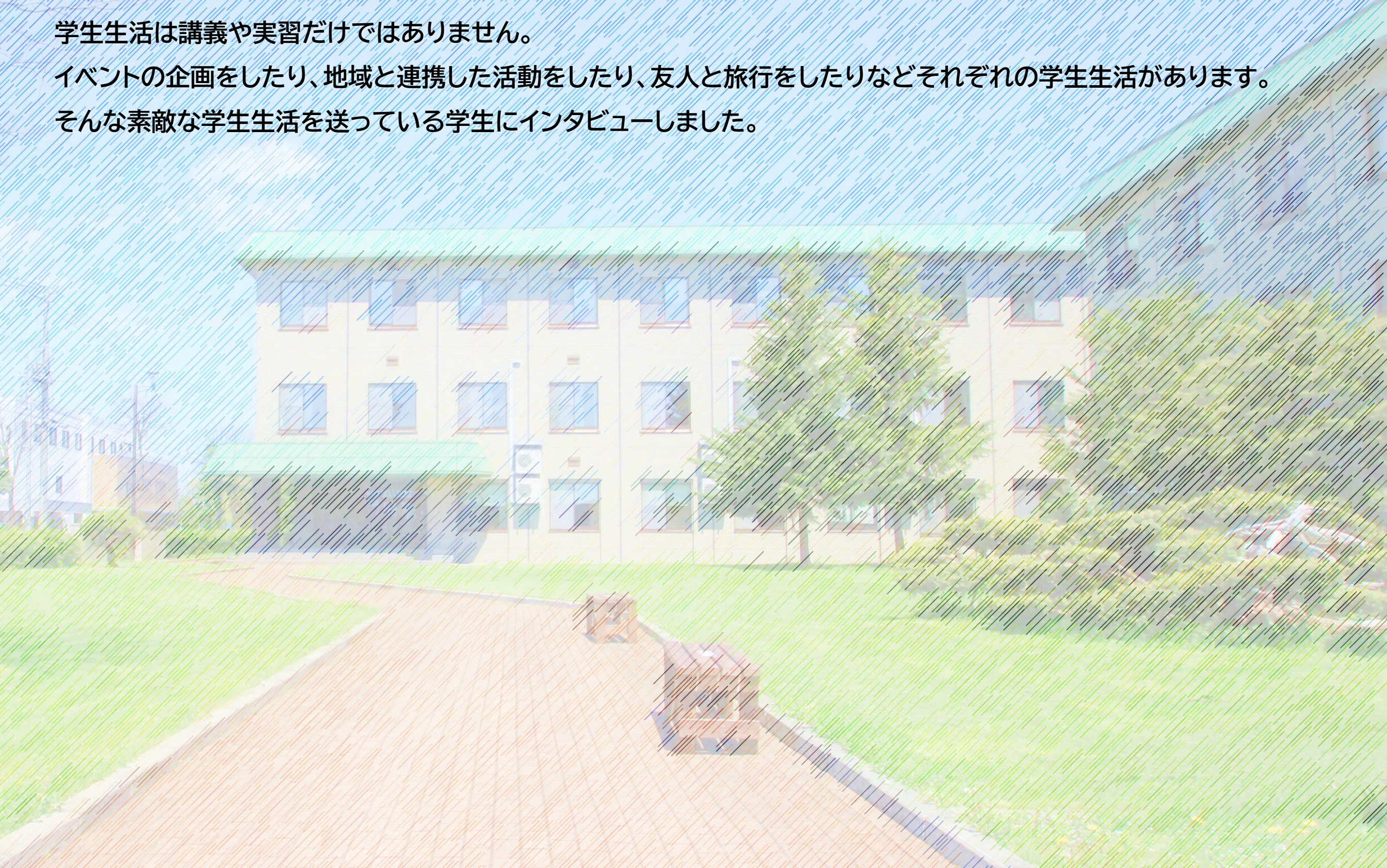


MY CAMPUS LIFE

学生生活は講義や実習だけではありません。

イベントの企画をしたり、地域と連携した活動をしたり、友人と旅行をしたりなどそれぞれの学生生活があります。

そんな素敵な学生生活を送っている学生にインタビューしました。



お惣菜を開発、販売へ！



販売商品のチラシ

栄養学科 4年
にしむら ゆうき
西村 友希 さん
稚内高校出身

商品開発の難しさと次回への意気込み

プロジェクトを進めていく中で、「ほかの商品と併せてお店での調理が可能か」、また、「お客様に購入してもらえぬ価格にすることが可能か」という理由から自分の考えたレシピを一部変更することもありました。

そのため、「自分の理想とするレシピ」と「販売するレシピ」の中でジレンマがあり、お客様に買ってもらえる商品を作ることの難しさを学びました。

このプロジェクトは今年度も引き続き行われ、販売も含め、再度チャレンジする機会をいただきました。

前回は「どのようなものがお客様に求められているのだろうか」というニーズの把握が事前にできませんでした。

今年度は「お客様が何を求めている、どのような商品を作ったら喜ばれるのだろうか」ということを意識し、「五感を使って食事を楽しめるようなレシピ」を作りたいです。



販売の様子



プロジェクトメンバーと

「なよろ健康レシピ開発プロジェクト」へ参加

3年生の8月に健康を促進し運動する人をサポートする惣菜レシピを開発することを目的とした「なよろ健康レシピ開発プロジェクト」に参加しました。

このプロジェクトは、名寄市立大学コミュニティケア教育研究センターをはじめ、北海道味の素株式会社、また、名寄市のスポーツによる街づくり・人づくりを推進するNスポーツコミッションが協働したプロジェクトであり、販売には株式会社西條にご協力いただきました。

昨年の8月からメニューの素案作成、私は4品を関係者へ提案し、その中の2品について10月から11月にかけて試作、レシピのブラッシュアップを重ねました。

最終的に11月に行われた関係者試食会を経て、私が考案したレシピでは「野菜たっぷりチキングラタン」を販売することが決まり、2月に西條名寄店で実際に販売することができました（プロジェクト全体では5品を販売）。



試食会の様子



実際に販売された商品

名寄市立大学の魅力について

なんととっても名寄市立大学の魅力は人だと思っています。先方は学生の相談に乗ってくれますし、授業でわからないことがあっても、わかるまで教えてくれます。共に学ぶ仲間も、講義や課題で助け合いながら、管理栄養士になると同じ目標に向かって頑張っています。

また、今回の「なよろ健康レシピ開発プロジェクト」のよきな地域に根ざした大学だからこそできる活動があることも魅力だと思っています。

卒業後も「スポーツと栄養」に関わりたい

卒業後は「スポーツと栄養」に関わる仕事がしたいと考えています。プロのスポーツ選手などトップアスリートに関わる仕事もありますが、私は栄養教諭として働きたいと考えています。

運動に関わる児童生徒に正しい知識をもとにした「身体づくり」や「運動パフォーマンスの向上」に必要な栄養や食事に対する指導ができる栄養教諭になりたいと考えています。



教職課程の仲間たちと



「看護の日」を企画・実施

名寄市立大学の魅力について

連携教育科目では、将来保健師として関わる管理栄養士や社会福祉士、保育士などそれぞれの専門職を目指す人の考えを聞けるので、広い視野で考えを深めることができます。地域とのかかわりが強いことも魅力です。講義では町内会活動など実際に地域に入った活動ができました。保健師は地域を考えながら働く必要があるため、いい経験となりました。また、コロナ禍の学生支援として地域の方からお米や野菜をいただき、自炊をしているので、とても助かりました。

実習頑張っています!!

4年生の前期は実習が多く、5月〜7月末まで毎日のように実習があります。新型コロナウイルス感染症の影響で学内での実習となりましたが、実際の現場で行われていることを常に意識しながら実践的な技術を身につけられるように取り組んでいます。

また空きコマや日々の実習が終わった後には図書館で国家試験に向けた勉強をしています。



看護学科 4年
 あおき さや
 青木 彩さん
 根室高校出身

「看護の日」に合わせて交流会を実施

「看護の日」のイベントを2年ぶりに開催することができました。コロナ禍の前は中高生を対象に学生による「保健師の乳児家庭訪問」を題材とした寸劇や血圧測定体験などが行われており、看護の理解を深めてもらうためのイベントを開催していましたが、今年度は学外の方を呼ぶことができないため、先生や4年生の友人と開催方法について検討し、同じ看護学科の他学年との交流会を行うことにしました。交流会では、先輩から学生生活や試験対策などの相談を聞いたり、オープンキャンパスに参加した高校生へ向けたメッセージボードを作成しました。参加した後輩からはコロナ禍で先輩との交流が少なくなっていたこともあり、「試験対策や実習にあたり、今まで不安に思っていたことが先輩に相談できて解消できた」という声も聞くことができました。また、先輩の相談を聞くことで私たち4年生も自分たちの成長を実感することができ、いい経験となりました。



交流会の様子



メッセージボード

忙しい中でも息抜きを大切にしています

実習や国試対策で忙しい日々ですが、入浴剤を入れて風呂をしたり、友人とイオンに行ってテイクアウトをし、息抜きをしています。

また、時間があるときは夜に友達と散歩をして、のんびり歩きながら実習のことなど、いろいろとお話しています。天気の良い日は大学公園から星がきれいに見えるので、「星が綺麗だね」と言いながら気分転換をしています。



友人と(2019年撮影)

保健師として健康をサポートしていきたい

元々、卓球をやっている、元気な高齢の方と接する機会が多くあり、そうしたいつまでも元気に過ごしていくための健康をサポートしていける保健師になりたいと考えています。実習では、生活習慣病になった方と関わる機会があり、「食べたいものを食べられない」「薬を飲まないといけない」などつらい状況を見た時に、病気を予防することの重要性を改めて実感し、さらに保健師への思いが強くなりました。



大学公園で



実習の様子①



実習の様子②

友人とENJOY大学生活！

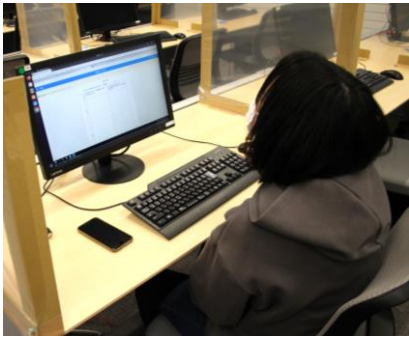


社会福祉学科 3年
あべ あやね
阿部 彩音 さん
新発田高校出身（新潟県）

実習へ向けて準備を進めています！

今年にはソーシャルワーク現場実習という初めての現場での実習があり、現在は実習計画を作成しています。実習施設だけではなく、施設のある地域について詳しく調べています。施設にはその地域で過ごされている、あるいは過去に過ごされた方がいらっしゃるのでもその方たちの価値観や人生を考える際にその地域の歴史や文化、自然などの様々な情報をできるだけ把握しておくことが必要だと考えているからです。

反省することはもちろんあるかと思いますが、後悔のない実習にしたいと考えています。



実習計画作成中！



実習指導の様子

将来は高齢者に関わる仕事がしたいです！

人の助けになる仕事を考えた時に、様々な福祉の仕事がある中で自分の経験から、高齢者の方と関わる仕事がしたいと思いました。

卒業後は地元の新潟県で特別養護老人ホームなどの介護施設で働きたいと考えています。

介護施設の利用者さんが望んだ生活ができるようなお手伝いがしたいです。

阿部さんのとある1週間

空きコマ

★遠隔授業

(2022.4.18~4.24)

	月	火	水	木	金	土	日
1-2時限目 (9:00-10:30)	ソーシャルワーク論VI	一週間分の買い物！！	課題	福祉計画論	総合演習		
3-4時限目 (10:40-12:10)	ソーシャルワーク論V	作り置きを作る①	介護福祉論	作り置きを作る②			
5-6時限目 (13:10-14:40)		ソーシャルワーク演習V	課題			休日 (アルバイト)	休日 (アルバイト)
7-8時限目 (14:50-16:20)	★保健医療福祉連携論	ソーシャルワーク現場実習指導II	課題	アルバイト			
9-10時限目 (16:30-18:00)	★医療福祉論	英語III	課題				

友人と遊ぶ
(夜まで！！)



←宗谷岬

ノシャップ岬↓



冬休みには宗谷岬に行きたい！という友人の言葉で短期間でホテルなどの計画を立てて稚内へ旅行に行きました。急遽でしたが道中も楽しく、今大学生してるな〜と思いました。

卒業までにできるだけたくさんさんの思い出を友人たちと作っていききたいです。

ちよつとした会話から宗谷岬へ！

友人との雑談やサークル活動が楽しみ！

講義終了後に友人たちと雑談する時間が楽しみのひとつです。授業や趣味の話やくだららない話をして、また明日も頑張ろうという気持ちになります。

また、合唱サークルに所属しており、普段の授業などではなかなか交流する機会のない他学年や他学科の学生と交流ができるのがサークル活動の良い所だと思っています。

特に合唱はみんなで息を合わせて曲を歌うので、みんなで何かをやるという一体感を感じられます。

火曜日は18時~20時までサークル活動（合唱サークル）しています！！

4月に地域公演を開催！



社会保育学科 4年
てづか もえ
手塚 萌 さん
釧路江南高校出身

大変だったからこそ、成長したと感じます

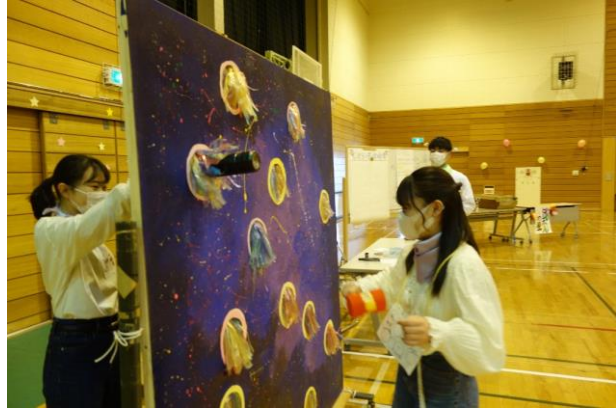
コロナ禍前の地域公演は2年生の時に1年間かけて準備をし、劇を行うものでした。今回は準備の時間がないため劇ができず、「そもそも何をやるのか」という0からのスタートでした。

「企画が思いつかない」「準備する人が集まらない」「本間に間に合うのか」などうまくいかない、不安に思うことばかりの中、さらに、コロナ禍で地域の子どもたちを呼ぶことができなくなりました。

それでも普段関わることのない下の学年の学生がお客さんとして来てくれたこと、何より活動がうまくいかない中でも「自分がやりたいこと」を持ち続け、開催まで活動ができたことが自分の成長につながりました。



「ようこそ わくわく星へ」



モンスター（もぐら）たたき

地域公演を行い、思い出を残したい！

コロナ禍で学びの成果を発表する地域公演を含めてイベントが全くできずに悔しい思いをしていました。

3年生の実習が終わり、「ここでやらないとなにもできない」「地域公演ならできるのではないか」と考え、実行委員を募って活動を始めました。

地域公演を通して同じ学年で何か思い出に残ることをしたいという気持ちも強かったです。

また、せっかく名寄に来ていろいろできる大学にも関わらず、イベントができなかったことを「大学生活を無駄にした」とも「コロナのせいだ」とも思いたくないという気持ちもありました。

やりたい、そして強みを活かす企画「縁日」

3年生から4年生へ進級し、就活などで忙しくなる時期に企画・準備・開催を行うため、みんながやりたいと思えるような「魅力的な企画」が必要でした。

実習を経験した強みを活かせること、また、コロナ禍で地域の方にお世話になったので、地域の子どもたちが来て楽しめる「縁日」がいいのではないかと考え、企画しました。

縁日のテーマを「宇宙」と決め、「わくわく星をつくり、地球人に遊びに来てもらう！」をコンセプトに「魚釣り」や「モグラたたき」「ストラックアウト」などの遊び場を用意しました。

テーマ・コンセプトに合わせ、それぞれの遊び場を工夫し、例えば「モグラたたき」では、「星からモンスターが出てきて倒す」というストーリーで遊び場を用意しました。

名寄市だからこそできたアルバイトや経験

1年生から援農のアルバイトをしています。いろいろな学科の学生と仲良くなることができ、また「運動した」とやりがいを感じるアルバイトです（とても美味しい野菜をいただけることもあります（笑））。

名寄市に来て、「何もなければ、何かできることを振り絞る」という発想を身につけました。冬には友人と「冬花火」や「アイスクャンドル」「米一升チャレンジ」を企画し、楽しみました。

援農アルバイト



冬花火



アイスクャンドル

将来は「人と人をつなぐ職業」へ

地域公演の活動を通して、例えばその地域に「保護者と保護者がつながる場所」や「子どもたちが遊ぶ場所」がなければそういう場所を作っていく活動ができる「人と人をつなぐ職業」に就きたいと思いました。

そのためにも卒業後は、まずは入学時から関心を持っていた児童養護施設で働きながらキャリアを積み、自分の役割、自分にしかできないものを見つけたいと考えています。

栄養学科 中村ゼミ

ゼミ活動について

ゼミ活動のテーマは「臨床栄養の中で患者さんの心に寄り添い、効果的な栄養指導方法を追及すること」です。ゼミ活動の内容は診療所の患者さんの病態や栄養状態の評価と指導について学んでいます。

卒業研究では臨床栄養や生活習慣病に関する文献を調べたり、名寄市風連国民健康保険診療所にご協力をいただき、実際の患者さんの病態や栄養状態の経過観察を行う症例研究をします。



中村 育子 准教授

症例研究では診療所の職員、または教員が同席し、学生が患者さんの生活習慣等について聞き取りをしたうえで食事に関するアドバイスを行う予定です。



臨床栄養（学）とは？

病院や高齢者施設などでは、生活習慣病などの疾患を持ち、栄養管理や食事療法が必要な患者さんがいます。

血液検査をはじめ様々なデータや聞き取りした生活習慣などをとに、それぞれの患者さんに適した栄養管理の方法や食事療法について学んでいくのが臨床栄養学です。

ゼミ生インタビュー

4年生 吉田 那奈さん



左から吉田さん、佐藤さん、田淵さん

私は高校で運動部に所属し、顧問の先生が大会の時に「こういう場面ではこういう食事をとるといい」など指導してくれました。競技や場面によって食事を変えるとパフォーマンスが変わるということを知って、面白いと思いました。

競技に関わらず、その人たちにあった食事はどのようなかを考え、関わっていくことができたなら面白いなと思います、管理栄養士を目指しました。

卒業後は高齢者施設で管理栄養士として働きたいと思っています。

高齢者施設では利用者の普段の生活に密着しながら、その人の生活全体を支え、ケアをできる管理栄養士になりたいと思っています。



中村先生メッセージ

日本は少子高齢化社会で、高齢者を取り巻く環境は、独居高齢者のみで世帯が増加し、生活環境が大変厳しくなっています。高齢者の栄養状態は、生活環境の悪化に大きく影響し、低栄養リスクが高まります。

管理栄養士には様々な仕事があります。高齢者の栄養改善に貢献できるスペシャリストでもあります。

疾患などを抱えた方たちの気持ちを理解できるように学んでほしいです。

看護学科 中谷ゼミ

ゼミ活動について

成人看護学領域の急性期看護を担当しています。急激に生命の危機に陥りICUや救急領域で治療や看護を受ける患者さんやその家族を対象とした研究、特に治療のいかにもなく亡くなってしまふ患者さんやその家族の看護についての研究に取り組めます。



中谷 美紀子 講師 (右から2人目)

しかし、基本的には学生が学習や体験した実習から興味をもった事柄をとことん話し合い、研究疑問を解決する方法を見つけていく支援をしています。

これまで、臨終の際に看護師が泣くことの意味、コロナ禍で患者を看取る救急看護師の精神的負担からの回復、コロナ禍で実習が中止になってしまった看護学生の不安などの研究に取り組みました。

ゼミ活動では、興味のあるテーマに関する文献を徹底的に読んでもらいます。最近5年以内の看護研究論文を読み込んでもらい、最新の知見を得ることが重要です。日本国内の論文にとどまらず海外の論文もリサーチするよう指導しています。

ゼミの際はそれぞれ読み込んだ文献を発表し、ディスカッションしていきます。



ゼミ生インタビュー

4年生 山崎 夏輝さん



左から木村さん、安部さん、中谷先生、山崎さん

卒業後、看護師として成人の急性期の領域、具体的には循環器系を経験して、ICUで働きたいと考え、卒業研究では成人看護学領域を選択しました。現場での経験も含めて、中谷ゼミで得られるものは大きいと考えています。

卒業研究のテーマはまだ悩んでいます。ヤングケアラーと訪問看護について、もしくは「男性看護師の臨床での活躍」を取り上げようと考えています。

文献が少なく、探するのが大変ですが、中谷先生はとても話しやすい先生なので、相談しながら頑張っていきたいと思っています。

中谷先生メッセージ

看護研究の結果は臨床で活用されることが一番重要ですので、臨床で働く看護師を常に意識して取り組んでほしいと思います。

新型コロナウイルス感染症の影響で2年以上われわれは苦しい状況での生活を余儀なくされています。私も名寄にきた時はすでにコロナ禍で、画面を通して授業を行っていた時期はとて辛いのがありました。これほど人とかかわりの素晴らしさを実感したことはありませんでした。

自分の学生生活を振り返っても大学生時代の友人は一生ものです。マスク生活はまだ続くかもしれませんが、感染予防を十分に行ったうえで友人との交流、アルバイト、サークル活動など青春を謳歌してほしいと思います。



栞山 茂樹 准教授
(前列中央)

ゼミ活動について

憲法と国際人権法を中心に学んでいます。法学の中でも、国家権力と人権の関係を対象とする分野です。ゼミ生には子どもの人権や教育法に関心を持つ学生が多いですが、その他法律全般に興味のある学生もいます。どんな目的であれ、旺盛に学ぶ意欲さえあれば歓迎です。3年生ではテキストを購読し、憲法と国際人権法の全体的な知識を習得します。また、自力で調べ、考えてもらうように、法学文献の調査・収集方法も早くから指導しています。

社会福祉と法律について

福祉と法学は切っても切り離せない関係にあります。憲法や人権条約の社会権規定は、福祉制度の基盤を成すものです。貧困や障害に苦しむ人々が、それらの条項に基づいて国に救済を訴えた裁判例も、数多くあります。本ゼミではそういった法制度の動向や、その根底にある人権の理念に焦点をあてて学ぶことができます。



ゼミ生インタビュー

3年生 石倉 みのりさん

私は元々憲法や法学に興味がありました。また、卒業研究の内容が決まっていなかったということもあり、憲法や法学に関する知識を身につけておくことで、どのような研究をすることになっても役に立つと考え、栞山ゼミを選択しました。栞山先生は疑問に思ったことに対してとても丁寧に答えてくれます。まだ知識が浅い私ですが、知識を深めていき、よりよい質問ができるようにしていきたいと考えています。

余談ですが、栞山先生はとても健康に気を使っており、コントレックスという意識の高い水と、緑色のビンに入った高そうな炭酸水(ペリエ)を毎日飲んでいきます(笑)



栞山先生メッセージ

キャリアデザインが多様化してきた現代では、大学で学ぶ意義も変わりつつあるように思います。法学の勉強を通じてさまざまな基礎的能力を高めてもらいたいと願っています。本ゼミで国家と人権について学ぶことは、福祉や教育の専門職をめざすうえではもちろん、それ以外の進路を選択する学生にとっても、有意義な土台になると信じています。



栞山先生の趣味は格闘技!!

社会保育学科 棚橋ゼミ

ゼミ活動について

大学教員になる前に私自身が幼稚園教諭だったこともあり、ゼミ活動では、保育現場とのつながりから得られる学びを大切にしています。

また、大学での学びと実践について、学生が自分なりの視点でつないでいけるような往還的な学び方ができるような心がけています。

ここ数年はコロナ禍のため、学内での活動を中心に、学生自らが興味のある題材を持ち寄り、それぞれが自分なりの視点で課題を捉え、互いに情報発信を行ってきました。



今年度は、感染対策を前提にフィールドワークを設け、園の子どもたちや現場の先生方との交流を通して、自分なりの問いをもって保育に向き合う機会を持ちたいと考えています。



教材作成中!

ゼミ生インタビュー

4年生 小西 綾香 さん

棚橋先生は、学生の考えを引き出して言葉で表現をしてくれます。私はあまり考えを言葉にすることが得意ではないため、相談をしながら卒業研究を進めたいと思い、このゼミを選びました。



棚橋 裕子 准教授 (後列左端)

卒業研究のテーマは棚橋先生と相談し、「保育者はどのような時に子どもを褒めるのか」子どもの自己肯定感の高まりとの関連性」になりました。ゼミの雰囲気はとてもよく、棚橋先生はお話が好きなので談笑することも多くありますが、集中するときはしっかりと切り替えて取り組んでいます。名古屋市立大学では4年間かけて保育が学べます。短期大学や専門学校だと忙しく、なかなかできないアルバイトなどの社会経験ができたり、1・2年生でじっくり学んだことを3・4年生の保育実習や幼稚園実習で活かすことができます。

棚橋先生メッセージ

保育は、子どもとの関わりを通して、常に自分自身と向き合う仕事です。

保育者として大切なことは、保育者が子どもに何かを教え与えることよりも、子どもが自分からおもしろいことに向かっているか、また、その遊びに関わっていかせるかを考えていくことにあります。

そうした保育活動は、保育者の遊びに向き合ってきた経験が下支えとなるものです。

学生生活では、友達と一緒にお腹がよじれるほど笑い楽しむことや、悩みながら試行錯誤をして乗り越えること、思考を巡らせ仲間と議論をすることなど、そうした機会をおもしろがりながら向き合ってください。





ケア研とは？

コミュニティケア教育研究センター（通称「ケア研」）は、名寄市立大学の理念の一つである社会連携・社会貢献の基盤を整備するとともに、教育実践―研究の橋渡しにより、本学の教育研究活動のさらなる充実を支える組織です。
 ケア研では、教育、研究、地域交流の3つを柱として活動しています。これらの活動を通じて、地域と大学をつなぐ窓口の役割を担っています。

こんな活動しています

① 学生ボランティア支援
 ケア研では、地域からの学生ボランティア依頼の受付、学生への情報提供を行っています。

また、学生のボランティア活動のよりよい実践例を評価し、ボランティア活動を活性化させるために、毎年「グッド・プラクティシヨナー」を表彰しています。

←子ども育成会行事のボランティア



「グッド・プラクティシヨナー」表彰式 →

② 研究活動・地域交流

ケア研では、「援農ボランティア事業」や「なよろ健康レシピ開発プロジェクト」など、名寄市を中心とした道北地域の課題発見・解決に資する研究や先駆的実践活動を行っています。

また、地域の関係機関と連携した行事や、学生・教職員による多様な地域交流活動を行っています。



↑「なよろ健康レシピ開発プロジェクト」では、開発したお惣菜が実際に販売されました！！

「援農ボランティア事業」 ↓



センター長メッセージ

本学は、山と川と豊かな自然に囲まれた名寄市に立地し、地域と連携しやすい環境にもあります。勉学に集中するには最適な場所でもありますが、このフィールドでここでしかできないような経験や活動の機会があります。

大学を目指す高校生のみなさん、興味を持った活動があれば積極的にアプローチしてチャレンジすることは大事なことです。進学した際には、4年間の学生生活でボランティア活動にも挑戦してみたいかがででしょうか。（センター長 荻野 大助）



「ポッチャ交流」

研究室紹介

教養教育部 清水幸子准教授



自己紹介

専門分野は生涯スポーツの推進。子どもから高齢者までのスポーツライフをサポートすることを専門としています。

本学では「スポーツ実技」「スポーツ理論」「基礎演習」「地域との協働」を担当しています。

趣味のスキーでは国内外のスキー場で滑っています。オリンピック等のコースを滑ることや、素晴らしい景色に出会えるのも海外スキーの魅力です。

担当科目「地域との協働」

「地域との協働」では、学科を越えた学生たちと一緒に市内のスポーツ

クラブと連携し、スポーツの視点から地域との共育を考えていく活動に取り組んでいます。



こんな研究しています

① スキーの研究

令和3年9月に本学に着任し、スキーの研究を本格的に再開する準備を始めています。名寄を含め、道内のスキー場を滑り、スキー場の特徴や地域を知り、北海道のスキーのルーツを探求しています。

名寄市内には名寄スキー競技発祥碑があり、昭和54年に市技にも指定され、スキーの歴史や文化が多く残っています。

日本のスキーの歴史は百年ちよつとです。楽しみな研究が始まりました。



名寄市で開催されたスキー大会の様子

② 運動×○○

「運動×○○」とは運動とかかわる研究のことです。

本学はコミュニティケア教育研究センターが設置されており、地域課題について学科や研究分野を越えた取り組みや共同研究を行っています。

私は今年度から産学官民連携によるプロジェクトに参加させていただくことになり、栄養学科の先生と「運動×栄養」について、運動学の視点からレシピ開発に関わることになり、私にとって新しい分野の研究が始動します。



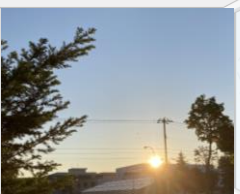
運動指導の様子

メッセージ

大学の4年間は人生の中で貴重な時間です。私はスキー競技と真剣に向き合い、大学院への進学にもつながりました。この経験が現在の研究の基盤となっています。

新しい発見や出会いに感動する日々をここ名寄で一緒に経験しませんか？まだ見ぬサンピラーを来シーズンこそは見てみたい。そんなドキドキ感をもちながら、過ごしています。

最後に私の研究室がある3号館からの夕陽は最高です。そしてその時間は心とカラダをパワーチャージすることができ、素敵な時間になっています。



研究室からの夕陽

サークル活動紹介

天文サークル **星楽流**

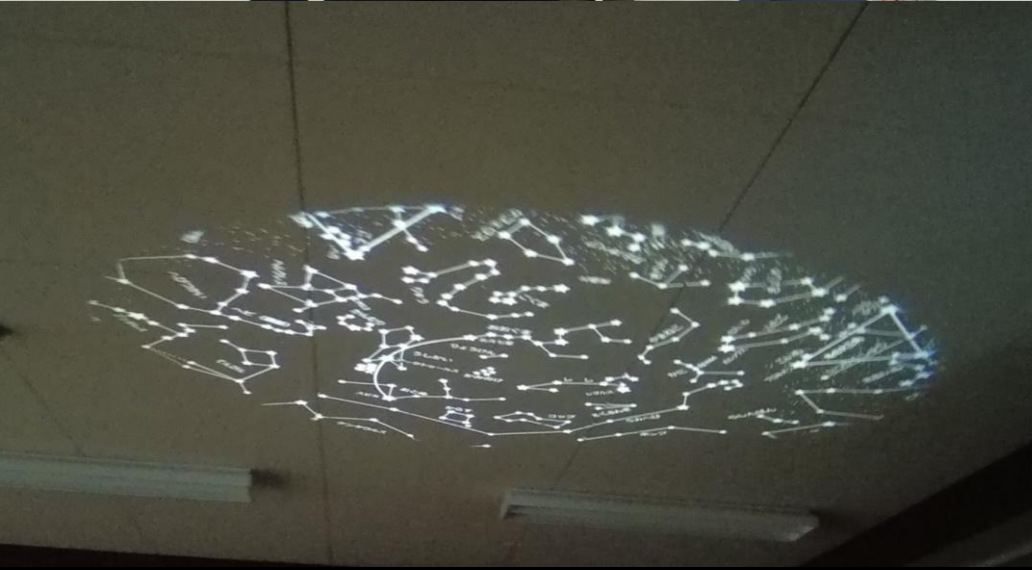
ほたる



←天球づくり



プラネタリウム
観賞 ←



【活動日時・人数】
毎週金曜日、18時30分
から約10名で活動をしていま
す。

【活動内容】
現在（6月）は、「プラ
ネタリウム」を行うために
必要な「天球づくり」や、
その後の時間でメンバーと
教室でプラネタリウム観賞
をしています。

また、コロナ禍ではあり
ますが、感染対策をしながら
月に1回程度、なよろ市
立天文台「きたすばる」に
行き、星空観賞やプラネタ
リウム観賞、職員さんから
星座のお話を聞いたりして
います。



【サークルの雰囲気】

先輩後輩の仲もよく、
アットホームで居心地の良
い雰囲気です。
星空を眺めるのが好きな
仲間たちが楽しくお話しな
がら活動しています。
学科や学年を超えてメン
バーが集まっているので、
多くの友人ができます。

なよろ市立天文台
「きたすばる」

